

活用事例：長野県千曲市

※ 本資料に記載の事例は、ワークブックの作成等を目的として内閣官房が2023年度に行った調査研究事業に参加したモデル地方公共団体が実践した「地域アプローチ」による取組の内容を、全国の地方公共団体がワークブックを活用する際の参考とすることを目的として編纂したものです。

本資料に記載の内容については、あくまで上記の目的に基づくものであり、当該地方公共団体の今後の検討方針について定めたものではありませんので、ご理解の上でご活用ください。

少子化対策地域評価ツール ワークブック

団体名：長野県千曲市

作成者：企画政策部総合政策課 / 次世代支援部こども未来課 等

活動時期：2022年5月～2023年3月

地域の実情に応じた “オーダーメイド型”
の少子化対策の実践に向けて

STEP 1 部局横断的な検討体制の構築

プロジェクトチームの構築

✓ 「地域アプローチ」による取組のプロジェクトメンバーを一覧にしまとめる。中心となる事務局（コアメンバー）が誰かを明確に整理しておく

✓ 本シートは、各STEPの検討を経て協力者・関係者が増えるごとに更新を行う

※青色マーカー：コアメンバー

所属	部署名	役職	氏名	リーダー
企画政策部	総合政策課	課長		◎
次世代支援部	こども未来課	課長		○
企画政策部	総合政策課	係長		
企画政策部	総合政策課	担当係長		
次世代支援部	こども未来課	係長		
次世代支援部	こども未来課	主幹兼係長		
総務部	行政マネジメント室	係長		
企画政策部	市民協働課	係長		
健康福祉部	福祉課	係長		
健康福祉部	健康推進課	係長		
健康福祉部	人権・男女共同参画課	係長		
次世代支援部	保育課	係長		
経済部	産業振興課	主幹兼係長		
経済部	ふるさと振興課	主幹兼係長		
建設部	建設課	係長		
教育委員会	教育総務課	主幹兼係長		
教育委員会	生涯学習課	係長		

実施計画の策定

- ✓ 「地域アプローチ」による検討の内容を明確にしつつ進捗確認を行うため、今年度達成したいこととそのために必要な調査や取組の予定を記載する

●達成したい目標

2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 部局横断的な体制を構築 ✓ 少子化の要因・課題の見える化
2023年度	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 部局横断的な体制を常設（組織化） ✓ 少子化対策事業の立案・予算化 ✓ 実施可能な事業を実施
2024年度～ (将来)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 少子化対策事業の効果検証、継続実施

●具体的なスケジュール

時期	2022年4月	5月	6月	7月
到達目標 (マイルストーン)		○ 少子化対策事業の現状把握、課題整理	○ 出生に関連する市の特徴を整理	○ 仮説の検証に必要なデータの収集を計画
実施内容 (予定)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 現状の棚卸 ■ 現状分析 	<ul style="list-style-type: none"> ■ キックオフミーティング ■ 現状分析 ■ 市の特徴の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仮説の立証及びそれに必要なデータ収集方法の検討（アンケート調査、関係団体等との意見交換会など）
市町村WS（予定）			○	○
都道府県WS（予定）				

時期	8月	9月	10月	11月
到達目標 (マイルストーン)	○ データ収集（アンケート調査等）の準備	○ アンケート調査の準備	○ アンケート調査の準備	○ アンケート調査の実施
実施内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ■ データ収集（アンケート調査等）の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート調査の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート調査の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート調査等の実施 ■ 調査結果データ入力・分析
市町村WS（予定）				
都道府県WS（予定）	○			

時期	12月	2023年1月	2月	3月
到達目標 (マイルストーン)	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケート調査等結果の分析 ○ 少子化の要因仮説の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子化の要因仮説の検証 ○ 今後の方向性の整理 ○ 今年度の成果のまとめ 	○ 今年度の成果の発表	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子化対策の新規施策の立案、既存施策の見直し ○ 来年度以降の組織体制の立案
実施内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート調査等の実施 ■ 調査結果データ入力・分析 ■ 少子化の要因仮説の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 少子化の要因仮説の検証 ■ 今後の方向性の整理 ■ 今年度の成果のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今年度の成果の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 課題解決のための施策を検討 ■ 来年度以降の組織体制の検討
市町村WS（予定）		○	○	
都道府県WS（予定）			○	

STEP 2 客観的指標の分析による地域特性の見える化

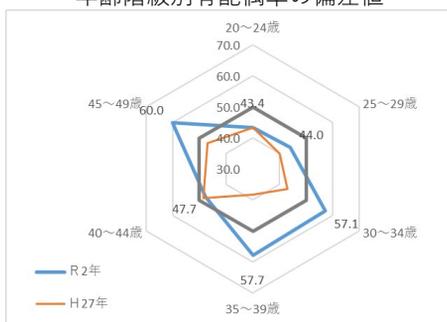
出生に関連する指標の特徴をまとめる

- ✓ 出生に関連する指標と地域の様々な指標との関係性について整理して、少子化の要因仮説の立案につなげていくために、まずは出生に関連する指標の特徴について細分化した上でその特徴（地域別・属性別・時系列別等）を書き出す

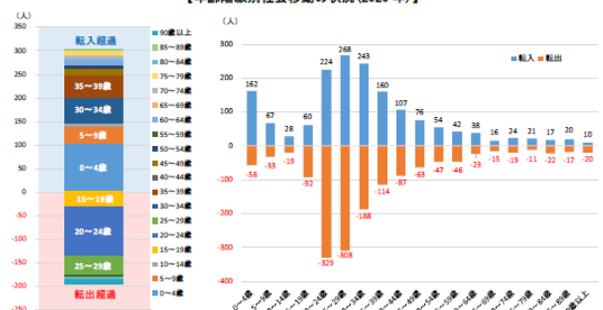
STEP2-3 で作成

出生に関連する指標	出生に関連する指標の特徴 客観分析：県・全国値との比較／経年比較	地域の様々な指標を踏まえた出生に関連する指標の要因仮説	参照したデータ
有配偶率	日本人女性の有配偶率について、平成27年では20～49歳の全ての階級で県の値を下回っていたが、令和2年では30歳代と40歳代後半で県の値を上回った。 平成27年と比べると、県の値は20～49歳の全階級で低下したが、千曲市は30歳代が大きく上昇した。（19市中で1番）	<ul style="list-style-type: none"> 人が集う場が少なく出会いの機会が少ない 結婚に対する意識の変化。（しなくてもいいと思う人が増加傾向、したい人が減少傾向） 結婚を望む（したい）人が少ない（男女とも） 自分の時間やお金優先で結婚したくない 結婚する人が少ない（未婚者、独身男性が多い） 若い人は収入が低く、経済的な理由から結婚に至らない人も多いのでは 20代で結婚する人が減ったから30代で増えたのでは インターネット上で結婚の悪い面ばかり流れている 子育て世代（既婚者）が移住してきた 千曲線の開通などで新築家屋等が増加。＝他市からの子育て夫婦が転入 新婚の人が住むアパートが少なかった 仕事帰りに寄れる店舗が多い 	・地域評価指標のひな形
合計特殊出生率／有配偶出生率	一人目 H25～29年の出生順位別出生数割合をみると、県の割合より約1.6ポイント低い。 H25～R1年までの出生割合の推移をみると、年によってばらつきはあるが、県同様ほぼ横ばい傾向。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを産みたいと考える女性が少ない 結婚しても子供は少ないという人が増えた 結婚時に市外のアパートへ引っ越ししてしまう 収入が低い 	・地域評価指標のひな形 ・長野県「衛生年報」
	二人目 H25～29年の出生順位別出生数割合をみると、県の割合より約2.3ポイント高い。 H25～R1年までの出生割合の推移をみると、年によってばらつきはあるが、県同様わずかに減少傾向。	<ul style="list-style-type: none"> 他市で第1子を出産し、千曲市に家を建て、第2子を出産する人が多い 上の子の小学校入学前に持ち家を考える 子育て世帯の興味はマイホーム 1人は欲しいが2人目以降は子育てが大変 働きながら子育てが大変 親と同居して2人目を出産 	・地域評価指標のひな形 ・長野県「衛生年報」
	三人以上 H25～29年の出生順位別出生数割合をみると、県の割合より約0.8ポイント低い。 H25～R1年までの出生割合の推移をみると、年によってばらつきはあるが、県同様わずかに上昇傾向。 全体の出生数が減少している中、第3子はほぼ横ばいとなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 三世帯同居または両親が近くに住んでいるので育児に親の助けがある のんびり生活するには良い所 子どもがのびのび育つ 共働きが多い 保育園に入りやすく未満児から預けて働くことができる 広い土地が買やすく、広い家が建てられる 子育てしやすい環境を考えている 	・地域評価指標のひな形 ・長野県「衛生年報」
転出入	若年層 人口ビジョンによると、2020年は15～29歳で転出超過。特に、20～24歳は105人と転出超過全体の約半分を占めている。	<ul style="list-style-type: none"> 進学等で県外に行くが、住所はそのまま就職のときに転出する 結婚してしばらくはアパートに住む（職場の近く、長野市とか） 市内に大学などの高等教育機関がなく、進学時に市外に出て、そのまま帰ってこない 市に魅力がない 働き先が少ない 実家を出て市外のアパートなどに住む人が多い 転出超過が▲105人だが、転入者は224人いるので、この分析をしてここを増やすことができる 	・第2期千曲市人口ビジョン
	子育て世代 人口ビジョンによると30～54歳で転入超過。特に30～34歳は55人、35～39歳で46人と他と比べても多い。また、併せて、0～4歳で104人、5～9歳で34人の転入超過となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 実家など育った土地に戻ってくる 子どもが小学校入学のタイミングで転入してくる 長野市、上田市から遠くなく、土地が安いので家が建てやすく、千曲市で家を建てたいと思う人が多い 2人目と連動 	・第2期千曲市人口ビジョン

年齢階級別有配偶率の偏差値



【年齢階級別社会移動の状況(2020年)】

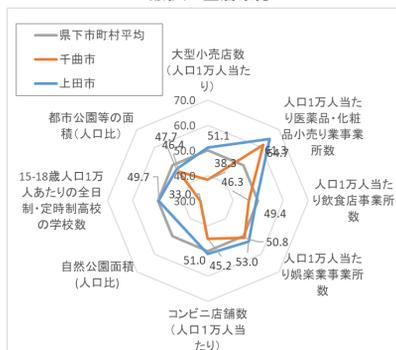


地域の様々な指標を見て、地域の特徴を考察する

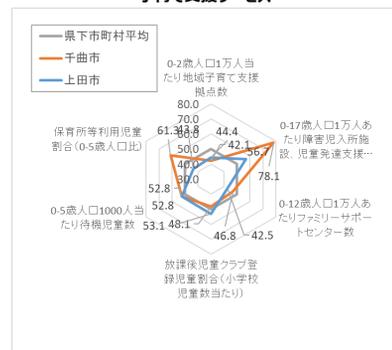
- ✓ 地域評価指標のひな型等を参考に、出生に関連する指標に影響を与えると考えられる地域の様々な指標の特徴と、そこから考えられることを記載する

分野	地域の特徴（事実を記載）	考察（特徴から考えられることを記載）
賑わい・生活環境	19市で比較すると、「大型小売店数」、「15～18歳人口1万人当たりの高校数」が少ないが、「衣料品・化粧品・小売業事業所数」は多い。 ・交通の要衝 ・ベッドタウン的な位置（存在） ・塾が多い→子供が多い？ ・駅前（中心市街地）に若者がいない	・大型店（ショッピングモール）がないので賑わいが少ない ・若者の求める店が少ない ・休日の買い物や食事をする場合に上田市や長野市へ行くことが多い ・映画館がない、図書館が小さい、大学がない ・駅前がさみしい ・ガレリアがにぎわっている（学生が集まりやすそう） ・ドラッグストアやスーパーなど生活用品の店が多い ・身近な買い物は仕事帰りに寄れる店が沢山あり便利 ・1人1台車が必要 ・歩道が広く確保されていない（ベビーカー、車いす不便） ・新しい道ができた、交通の便が良い、長野市に近い ・温泉街のイメージが悪い、温泉街がうまく活用できていない
家族・住生活	19市で比較すると、用いている指標全てが高い。（持ち家世帯率、住宅延べ面積（100平米以上の割合）、一戸建て比率、3世代同居率） ・自然が豊か ・新築が増えていく ・農地から宅地への転用が活発 ・子育て世代が多い →孫の面倒を見てくれる、安心	・土地が安く家が建てやすい ・子育て世代の転入が多い（住みやすいということか？） ・農地を宅地にして家（新築）が増えている ・持ち家が欲しい人には魅力的 ・市街地でない地域は高齢者が多い ・古い家が多く、空家が多くなった ・古く大きい家が点在している ・アパートが少なく、外から若者が来にくいのでは？ ・アパートが元々少なかったが増えてきた
地域・コミュニティ	19市で比較すると「身近にいる子ども数」だけが平均を超えているが、概ね平均並み。 ・見守りしてくれる地域のおじさんが減った	・地域住民の子育て協力もあるので、山の方は結びつきが豊か、中心地はそうでもない ・公民館を利用しやすい（数が多い？気軽に借りられる） ・文化会館が3ヶ所あり、スポーツ施設も多い（マレットゴルフ、体育館） ・区の活動、公民館活動が活発（お祭りが多い） ・地域行事が減った ・若者（2,30代）が少なく消防団等の担い手がない ・日中市外に働きに出ており、活動・有事の際に参加できない人が多い ・千曲線沿線に新築が多く転入が多いがそれにより地域と疎遠になる ・こどもの数に地域差が大きい ・スポーツ少年団が減っている ・休日、近くで子供が遊んでいない ・SNSに載るような店や場所が少ない ・街中は車で走りつづら
医療・保健環境	19市で比較すると、3項目とも平均以下。 ・保健師数（人口1万人当たり） ・20～44歳女性人口1万人当たり産婦人科医師数 ・0～9歳児人口1万人当たり小児科医師数 ・人が集まる場が少ない ・産婦人科がない	・小児科が少なく緊急・夜間診療の出来る所がない（近隣にはある） ・出産できる産科がない（近隣にはある） ・総合病院がない（近隣にはある） ・長野市や上田市の病院へ行ってしまふ ・出産、子育てに不安を感じる ・内科とか個人の医者が増えた ・電車など公共交通機関の利用が少ない。不便な地域もある
子育て支援サービス	19市で比較すると「0～2歳人口1万人当たり地域子育て支援拠点数」は低いが、「保育所等利用児童割合（0～5歳人口比）」と「0～17歳人口1万人あたり障害児入所施設、児童発達支援センターの施設数」は高い。	・子育てを応援している ・赤ちゃん応援事業（カタログギフト、5万円（コロナ対策）） ・ファミリーサポート事業の利用者が増加している ・公立保育園が古い ・未満児の保育園が増えた。しかも国際的 ・長時間保育の利用が増えた ・保育園待機児童ゼロ ・（数値で見ると）保育園数も充実していると考えられる ・企業保育を増やす ・大きな公園がない ・ママ友サークル多い
働き方・男女共同参画	19市で比較すると、「通勤時間」は他市より多くかかっているが、他の指標は概ね平均並み。 ・専業主婦の孤立感	・男性の育休取得に積極的に取り組む企業が少ない ・女性はパートが多い。女性社長が少ない（企業訪問すると） ・飲食店等サービス業が多いので女性従業者が多いのでは ・中小企業から女性登用、育休が進まない ・市内に働く場が少ないので長野市や上田市など他市への通勤が多い ・道が混んでいる。通勤時間が長い
経済雇用	19市で比較すると、「昼夜間人口比」、「20～44歳の完全失業率」は良くないが、「男性の正規雇用者比率」は高い。	・大企業が少ない。（特に若い人の）働く場が少なく市外へ働きに行く ・若者の失業率が高いのは地元で働き口が少ないのでは ・共働きがほとんど ・慢性的な働き手不足（ハローワーク求人も多い） ・職種求人に偏りがあり、希望の職につけていない ・女性の正社員が少ない

賑わい・生活環境



子育て支援サービス



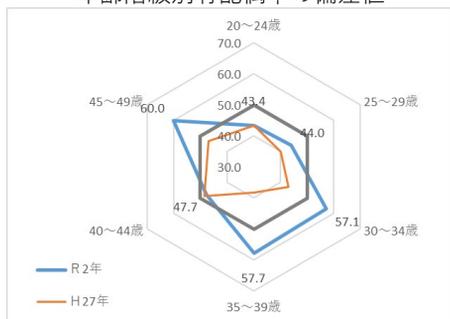
地域の様々な指標を踏まえて要因仮説を検討する

- ✓ 地域の様々な指標の特徴を整理した上で、出生に関連する指標の特徴につながっている要因仮説は何かを検討して記載する

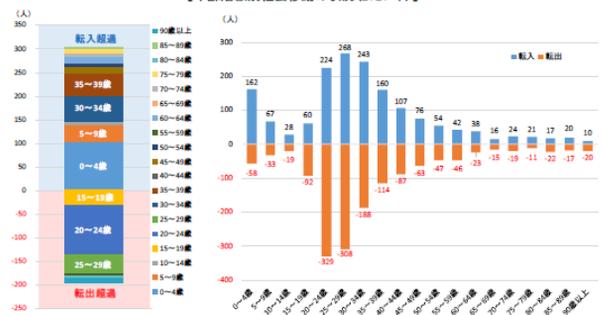
STEP2-1で作成

出生に関連する指標	出生に関連する指標の特徴 客観分析：県・全国値との比較／経年比較	地域の様々な指標を踏まえた出生に関連する指標の要因仮説	参照したデータ
有配偶率	日本人女性の有配偶率について、平成27年では20～49歳の全ての階級で県の値を下回っていたが、令和2年では30歳代と40歳代後半で県の値を上回った。 平成27年と比べると、県の値は20～49歳の全階級で低下したが、千曲市は30歳代が大きく上昇した。（19市中で1番）	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集う場が少なく出会いの機会が少ない ・結婚に対する意識の変化。（しなくてもいいと思う人が増加傾向、したい人が減少傾向） ・結婚を望む（したい）人が少ない（男女とも） ・自分の時間やお金が優先で結婚したくない ・結婚する人が少ない（未婚者、独身男性が多い） ・若い人は収入が低く、経済的な理由から結婚に至らない人も多いのでは ・20代で結婚する人が減ったから30代で増えたのでは ・インターネット上で結婚の悪い面ばかり流れている ・子育て世代（既婚者）が移住してきた ・千曲線の開通などで新築家屋等が増加。＝他市からの子育て夫婦が転入 ・新婚の人が住むアパートが少なかった ・仕事帰りに寄れる店舗が多い 	・地域評価指標のひな形
合計特殊出生率／有配偶出生率	一人目 H25～29年の出生順位別出生数割合をみると、県の割合より約1.6ポイント低い。 H25～R1年までの出生割合の推移をみると、年によってばらつきはあるが、県同様ほぼ横ばい傾向。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを産みたいと考える女性が少ない ・結婚しても子供はいらないという人が増えた ・結婚時に市外のアパートへ引っ越ししてしまう ・収入が低い 	・地域評価指標のひな形 ・長野県「衛生年報」
	二人目 H25～29年の出生順位別出生数割合をみると、県の割合より約2.3ポイント高い。 H25～R1年までの出生割合の推移をみると、年によってばらつきはあるが、県同様わずかに減少傾向。	<ul style="list-style-type: none"> ・他市で第1子を出産し、千曲市に家を建て、第2子を出産する人が多い ・上の子の小学校入学前に持ち家を考える ・子育て世帯の興味はマイホーム ・1人は欲しいが2人目以降は子育てが大変 ・働きながら子育てが大変 ・親と同居して2人目を出産 	・地域評価指標のひな形 ・長野県「衛生年報」
	三人以上 H25～29年の出生順位別出生数割合をみると、県の割合より約0.8ポイント低い。 H25～R1年までの出生割合の推移をみると、年によってばらつきはあるが、県同様わずかに上昇傾向。 全体の出生数が減少している中、第3子はほぼ横ばいとなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・三世帯同居または両親が近くに住んでいるので育児に親の助けがある ・のんびり生活するには良い所 ・子どもがのびのび育つ ・共働きが多い ・保育園に入りやすく未満児から預けて働くことができる ・広い土地が買いやすく、広い家が建てられる ・子育てしやすい環境を考えている 	・地域評価指標のひな形 ・長野県「衛生年報」
転出入	若年層 人口ビジョンによると、2020年は15～29歳で転出超過。特に、20～24歳は105人と転出超過全体の約半分を占めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・進学等で県外に行くが、住所はそのまま就職のときに転出する ・結婚してしばらくはアパートに住む（職場の近く、長野市とか） ・市内に大学などの高等教育機関がなく、進学時に市外に出て、そのまま帰ってこない ・市に魅力がない ・働き先が少ない ・実家を出て市外のアパートなどに住む人が多い ・転出超過が▲105人だが、転入者は224人いるので、この分析をしてここを増やすことができるとよい 	・第2期千曲市人口ビジョン
	子育て世代 人口ビジョンによると30～54歳で転入超過。特に30～34歳は55人、35～39歳で46人と他と比べても多い。また、併せて、0～4歳で104人、5～9歳で34人の転入超過となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・実家など育った土地に戻ってくる ・子どもが小学校入学のタイミングで転入してくる ・長野市、上田市から遠くなく、土地が安いので家が建てやすく、千曲市で家を建てたいと思う人が多い ・2人目と連動 	・第2期千曲市人口ビジョン

年齢階級別有配偶率の偏差値



【年齢階級別社会移動の状況(2020年)】



STEP 3 主観調査による地域特性の把握

要因仮説を踏まえた調査内容の検討

- ✓ STEP2で検討した仮説を踏まえて、調査と仮説との関係性に関するねらいをつけ、調査の内容や協力者、時期を整理する

No	調査・検討のねらい (検証する仮説)	調査の内容	協力者	実施 時期	担当者
例	Uターン者に対する支援が足りないので平均子ども数も市全体に比べ低くなっているのではないかな	Uターン子持ち世帯のUターン理由、ハードル、ハードルを乗り越えた方法	移住相談窓口 地域の不動産屋	●月頃	子育て支援課
1	新婚の人が住むようなアパートが少ないため、結婚する人・した人が市外に出てしまい、20代の未婚率が高いのではないかな	・市内アパートの需要と供給の状況 ・千曲市でのアパート探しで苦労した点	・地域の不動産屋 ・各アンケート調査対象者	11月～ 12月	総合政策課 健康推進課 子ども未来課 ふるさと振興課
2	結婚に対する価値観が変化し、結婚したくない人が増えてきているから20代の未婚率が高いのではないかな	年代別未婚者の結婚に対する価値観の違い	市の職員	12月	総合政策課 行政マネジメント室
3	市外で第1子を出産してから千曲市に転入してくる世帯が多いため、第1子の出生率が低いのではないかな	千曲市に転入してきた時の家族構成	・各アンケート調査対象者	11月～ 12月	総合政策課 子ども未来課 ふるさと振興課
4	子育ての協力者（祖父母、親族など）が近くにいるため第2子以降の出生割合が高いのでは	子育ての協力者の存在、出産・子育てに対する不安なこと	・各アンケート調査対象者	11月～ 12月	総合政策課 健康推進課 子ども未来課 ふるさと振興課
5	長野市と比べ土地が安いので家を建てる世帯の転入が多いのではないかな	・近隣との単価比較、千曲市の需要 ・所有地として千曲市を選んだ理由 ・新生活地として千曲市を選んだ理由	・地域の不動産屋 ・各アンケート調査対象者	10月～ 12月	総合政策課 税務課 健康推進課 ふるさと振興課 子ども未来課
6	子育て世帯の転入が多いことは、子育て支援策が充実しているからではないかな	千曲市に転入してきた理由	・各アンケート調査対象者	10月～ 12月	総合政策課 健康推進課 子ども未来課 ふるさと振興課
7	雇用の場が少ないので大学卒業後に戻らない女性が多いのではないかな	従業者男女比	既存調査結果	10月～ 11月	総合政策課

実施した調査の結果と今後の検討方針をまとめる

- ✓ 調査の設計及び結果について、以下のシートに調査 1 枚につき 1 枚ずつでまとめる
- ✓ 調査によって得られた結果とこれを踏まえた分析（過去の類似調査等との比較など）を踏まえて、仮説との整合性を確かめながら今後の検討方針（検討を更に進める、検討の方向性を変える 等）を記載する

調査設計	調査名称	人口減少対策に係るアンケート調査（結婚新生活支援事業補助金申請者向け）
	調査・検討のねらい (検証する仮説)	千曲市でのアパート探しで苦労した点があるか調査する。 (仮説 1：新婚の人が住むようなアパートが少ないため、結婚する人・した人が市外に出てしまい、20代の未婚率が高いのではないか)
	対象	結婚新生活支援事業補助金申請者
	実施時期	11月
	調査方法	郵送調査
	調査項目	別紙のとおり
調査結果	回収数	38.5% (5/13世帯)
	調査結果概要	<p><仮説の検証結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者が少ないこともあり、民間の賃貸住宅に住んでいる世帯の方が物件を探す時に苦労したかどうかはわからなかった。 <p><新たに得られた発見や洞察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の調査同様、民間の賃貸住宅に住む新婚の方が千曲を選ぶ理由は職場が近いこと。



調査結果を踏まえた 今後の検討方針	<ul style="list-style-type: none"> ・新婚の方の転入増のため、企業の誘致。 ・調査方法と調査内容を再検討し継続的に調査。
----------------------	---

実施した調査の結果と今後の検討方針をまとめる

- ✓ 調査の設計及び結果について、以下のシートに調査 1 枚につき 1 枚ずつでまとめる
- ✓ 調査によって得られた結果とこれを踏まえた分析（過去の類似調査等との比較など）を踏まえて、仮説との整合性を確かめながら今後の検討方針（検討を更に進める、検討の方向性を変える 等）を記載する

調査設計	調査名称	人口減少対策に係るヒアリング調査（不動産業者へ）
	調査・検討のねらい (検証する仮説)	①他市と比べ、新婚の方に紹介できる物件が少ないか聞き取る。 (仮説 1：新婚の人が住むようなアパートが少ないため、結婚する人・した人が市外に出てしまい、20代の未婚率が高いのではないか) ②他市と比べ、坪単価が低いため住宅を新築する世帯の需要が高いのか聞き取る。 (仮説 5：長野市と比べ土地が安いので家を建てる世帯の転入が多いのではないか)
	対象	・地域の不動産業者
	実施時期	11月
	調査方法	不動産業者へ直接聞き取り
	調査項目	別紙のとおり
調査結果	回収数	
	調査結果概要	<p><仮説の検証結果></p> <p>①物件が少ないわけではないが、カップルや新婚の方々は職場の近くで探す方が多い。千曲市は雇用の場が少ないので、若い方は市外に出る方も多く、必然的に住まいも市外となる。</p> <p>②篠ノ井など長野市南部と比べると確かに土地の坪単価は低い。そのため、長野市南部では予算に合わない人が千曲市を選んでいる。</p> <p><新たに得られた発見や洞察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・千曲市を最初から候補地にしている人は少ない。 ・妥協案として千曲市を選んでいる人が多い。



調査結果を踏まえた 今後の検討方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現状のままでは、長野市との坪単価の差が縮まったり、長野市で物件が多数出た時に、千曲市への転入者は減少すると思われるので、転入の候補地として千曲市を最初から選んでもらえるように考えていく必要がある。 ・企業を誘致しそこで働く方にまずは賃貸でいいので千曲市に住んでもらって千曲市の良さを知ってもらう。
----------------------	--

実施した調査の結果と今後の検討方針をまとめる

- ✓ 調査の設計及び結果について、以下のシートに調査 1 枚につき 1 枚ずつでまとめる
- ✓ 調査によって得られた結果とこれを踏まえた分析（過去の類似調査等との比較など）を踏まえて、仮説との整合性を確かめながら今後の検討方針（検討を更に進める、検討の方向性を変える 等）を記載する

調査設計	調査名称	人口減少対策に係るアンケート調査（市職員向け）
	調査・検討のねらい （検証する仮説）	年代別未婚者の結婚に対する価値観を調査する。 （仮説 2：結婚に対する価値観が変化し、結婚したくない人が増えてきているから20代の未婚率が高いのではないかと）
	対象	千曲市職員
	実施時期	12月
	調査方法	千曲市で導入している「ポリネコ！CHIKUMA」を使用し全職員へ調査
	調査項目	別紙のとおり
調査結果	回収数	16.7%（80／478人）
	調査結果概要	<p><仮説の検証結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答数が少ないため明言できないが、今回回答のあった 8 件に限れば「結婚したい」、「できれば結婚したい」と回答した方が6名で、20代だけを見れば、回答者 3 名とも「結婚したい」と回答していた。 <p><新たに得られた発見や洞察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の調査同様、約 4 割の方が、身近に育児支援者がいても理想と現実の子の数に差がある。 ・市内出身の方の約9割が市内に住んでいるが、市外出身の方で市内に住んでいる方は約半数。



調査結果を踏まえた今後の検討方針	・ターゲットや調査項目を再検討し再調査。
------------------	----------------------

実施した調査の結果と今後の検討方針をまとめる

- ✓ 調査の設計及び結果について、以下のシートに調査 1 枚につき 1 枚ずつでまとめる
- ✓ 調査によって得られた結果とこれを踏まえた分析（過去の類似調査等との比較など）を踏まえて、仮説との整合性を確かめながら今後の検討方針（検討を更に進める、検討の方向性を変える 等）を記載する

調査設計	調査名称	人口減少対策に係るアンケート調査（転入者向け）
	調査・検討のねらい (検証する仮説)	<p>①千曲市でのアパート探しで苦労した点があるか調査する。 （仮説 1：新婚の人が住むようなアパートが少ないため、結婚する人・した人が市外に出てしまい、20代の未婚率が高いのではないか）</p> <p>②転入時に既に第 1 子がいる世帯が多いのか調査する。 （仮説 3：市外で第 1 子を出産してから千曲市に転入してくる世帯が多いため、第 1 子の出生率が低いのではないか）</p> <p>③子育ての協力者の存在、出産・子育てに対する不安なこと （仮説 4：子育ての協力者（祖父母、親族など）が近くにいるため第 2 子以降の出生割合が高いのでは）</p> <p>④他市と比べ、坪単価が低いため住宅を新築する世帯に千曲市が選ばれているのか調査する。 （仮説 5：長野市と比べ土地が安いので家を建てる世帯の転入が多いのではないか）</p> <p>⑤子育て支援策が充実していることが転入のきっかけとなっているか調査する。 （仮説 6：子育て世帯の転入が多いことは、子育て支援策が充実しているからではないか）</p>
	対象	転入世帯の世帯主
	実施時期	11月
	調査方法	郵送調査
	調査項目	別紙のとおり
調査結果	回収数	25.4%（409世帯／1617世帯）
	調査結果概要	<p><仮説の検証結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者（転入時賃貸住宅に居住していた夫婦のみの世帯）のうちアパート探しに苦労した人は約半数であり、仮説立証とは言い切れない。なお、対象者が千曲市を選んだ理由の多くは職場の近くや通いやすいこと。 ・転入時に夫婦のみの世帯より子どもがいる世帯の方が多く、第 1 子の出生率が低いことに影響していると思われる。また、子どもがいる世帯でも千曲市で子を産む予定の世帯が約半数のため全体的に出生率が低い要因になっていると思われる。 ・第 2 子以降の出生割合に子育ての協力者の存在はあまり影響していない。 ・持ち家の方が千曲市を選んだ理由として「近隣より土地が安いから」という理由も多いが、「他で探していたがなかったため」という理由の方が多い。 ・子育て支援の充実が転入のきっかけになっていることはほとんどない。 <p><新たに得られた発見や洞察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・転入の約半数が子どもがいる世帯。



調査結果を踏まえた 今後の検討方針	<ul style="list-style-type: none"> ・若い単身者の転入増のため、企業や学校の誘致。 ・子育て世代の転入増のため、小児科等病院の誘致、屋内で遊べる施設の建設、大型公園の新設、既存公園の遊具更新などニーズを踏まえた検討。 ・働く者の環境づくりのため、男性の育児休暇取得促進や女性の産休・育休後、復帰した際の雇用の安定などについて企業への働きかけ。 ・空き屋（中古物件）を購入すると生涯支出が抑えられることをアピール。（生涯支出が抑えられれば金銭面の不安が解消できる） ・出産に対し子育て等の支出がネックになっている方が多いことから、まず給食費の補助など短期的な施策の検討。 ・大学卒業後に千曲市へ戻ってこられるよう、子どもの頃から千曲市に魅力を感じてもらえるまちづくり。
----------------------	--

実施した調査の結果と今後の検討方針をまとめる

- ✓ 調査の設計及び結果について、以下のシートに調査 1 枚につき 1 枚ずつでまとめる
- ✓ 調査によって得られた結果とこれを踏まえた分析（過去の類似調査等との比較など）を踏まえて、仮説との整合性を確かめながら今後の検討方針（検討を更に進める、検討の方向性を変える 等）を記載する

調査設計	調査名称	人口減少対策に係るアンケート調査（乳幼児健診・離乳食相談対象者、子育て支援センター利用者向け）
	調査・検討のねらい （検証する仮説）	<p>①千曲市でのアパート探しで苦労した点があるか調査する。 （仮説 1：新婚の人が住むようなアパートが少ないため、結婚する人・した人が市外に出てしまい、20代の未婚率が高いのではないかと）</p> <p>②子育ての協力者の存在、出産・子育てに対する不安なこと （仮説 4：子育ての協力者（祖父母、親族など）が近くにいるため第 2 子以降の出生割合が高いのでは）</p> <p>③他市と比べ、坪単価が低いため住宅を新築する世帯に千曲市が選ばれているのか調査する。 （仮説 5：長野市と比べ土地が安いので家を建てる世帯の転入が多いのではないかと）</p> <p>④子育て支援策が充実していることが転入のきっかけとなっているか調査する。 （仮説 6：子育て世帯の転入が多いことは、子育て支援策が充実しているからではないかと）</p>
	対象	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診・離乳食相談対象者（女性） ・子育て支援センター利用者（女性）
	実施時期	11月～12月
	調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診・離乳食相談対象者へは回答用紙を事前に郵送し、当日持参いただく ・子育て支援センターに来た方へはその場で回答いただく
	調査項目	別紙のとおり
調査結果	回収数	160人
	調査結果概要	<p><仮説の検証結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・『転入時賃貸住宅に居住していた夫婦のみの世帯』のうちアパート探しに苦労した人は6割弱であった。 ・身近に育児支援者がいる世帯の方が理想と現実の子の数にギャップがない傾向があった。 ・持ち家の方が千曲市を選んだ理由として「親が近い」、「親から土地を取得した」、「出身地」といった理由が非常に多く、それ以外では「近隣より土地が安いから」という理由が多い。 ・子育て支援の充実が転入のきっかけになっていることはほとんどない。 <p><新たに得られた発見や洞察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の出産補助休業や育児休業の取得率は市外で勤務しているの方がやや高い。 ・理想と現実の子の数にギャップがあるかないかは、世帯収入が低いとギャップがある人の方が多く、理想の子の数が持てない理由でも金銭面のことが多いこととつながる。



調査結果を踏まえた 今後の検討方針	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが大きくなってからも支援が受けられるなど子育てに係る費用を継続的に軽減 ・世帯収入が上がるよう、共働き、ダブルワークがしやすい環境づくり ・働く者の環境づくりのため、男性の育児休暇取得促進や女性の産休・育休後、復帰した際の雇用の安定などについて企業への働きかけ。 ・保育園へ未満児で預ける人が増えていることから、保育士が足りず、入園が厳しい地域もあるため、保育園に子どもを預けない人向けの支援をすることで自主的に入園を控える方を増やす。 ・身近に育児の協力者がいない方の多くが行政による育児支援を望んでいるため、ファミサポへの登録者数を増やす。
----------------------	--

実施した調査の結果と今後の検討方針をまとめる

- ✓ 調査の設計及び結果について、以下のシートに調査 1 枚につき 1 枚ずつでまとめる
- ✓ 調査によって得られた結果とこれを踏まえた分析（過去の類似調査等との比較など）を踏まえて、仮説との整合性を確かめながら今後の検討方針（検討を更に進める、検討の方向性を変える 等）を記載する

調査設計	調査名称	人口減少対策に係るアンケート調査（家屋取得者向け）
	調査・検討のねらい （検証する仮説）	他市と比べ、坪単価が低いため住宅を新築する世帯に千曲市が選ばれているのか調査する。 （仮説 5：長野市と比べ土地が安いので家を建てる世帯の転入が多いのではないか）
	対象	家屋取得世帯の世帯主
	実施時期	11月
	調査方法	固定資産税の家屋調査時に直接アンケート
	調査項目	別紙のとおり
調査結果	回収数	28世帯
	調査結果概要	<p><仮説の検証結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親が近い」、「親から土地を取得した」という理由の世帯も他の調査同様多いが、約 3 割の世帯が、仮説とした「近隣より土地が安いから」を理由に選んでいる。 ・実家が夫婦共に千曲市外の世帯に限ると、約 8 割の世帯が「近隣より土地が安いから」を理由に選んでいる。 <p><新たに得られた発見や洞察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫の約 8 割が千曲市外で勤務している。



調査結果を踏まえた 今後の検討方針	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤可能と思ってもらえる範囲を広げられるようインフラ（道路）の整備。 ・経済的支援と環境の整備など魅力あるまちづくりを両輪で進める。 ・製造業の従事者が多いため、勤務時間に対応した保育園の運営時間（土日祝、夜間）の見直し及び保育士の勤務条件などの課題に対して検討。 ・近隣との土地の価格差が小さくなる前に土地価格以外の強みの検討。
----------------------	---

STEP 4 地域の強み・課題の分析

取り組むべき課題や地域の資源や強みの整理

- ✓ これまでの調査結果を踏まえ、各分野で洗い出したライフステージごとの課題や資源を整理する
- ✓ STEP5以降のプロセスで対応策の検討に移ることも踏まえて、解決すべき課題の優先順位もあわせて検討する

項目		地域住民の実態と理想像	取り組むべき課題	地域で活用できる資源や強み
自然増減	有配偶率	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ●就職を機に市外に出てしまい、そのまま市外で結婚する人が多く、20代の有配偶率が低い。 ●他方で、近年は子育て世帯の転入が増えているため、30代の有配偶率は上昇している。 ●なお、市内にとどまっている人の未婚の要因については深堀できていない。(市職員を対象とした調査からは、「結婚したくない」と考えている人は少ないと思われる) ●雇用の場と出会いの場が少ない。 <p><理想像></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆千曲市に住む人が結婚したいときに結婚できる。 ◆多くの若者が千曲市にとどまり、千曲市で結婚する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●結婚したいけどできないのか、結婚したくないのかなど、未婚の要因を掘り下げる再調査の実施。 ●就職を機に市外に出る人が少なくなるよう、若者が希望する業種を増やす、若者が魅力を感じる施設を増やすなど、若者が千曲市に住み続けたいと思えるまちづくりを行う。 ●男女の出会いの場を創出。 ●技術者など企業が欲しいと思っている働き手を早い段階で確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ●長野市等に比べて賃貸マンション・アパートの賃料が安い。 ●スーパーなどが多く食品等の買い物が便利。 ●子育て世帯の転入が多い。
	出産	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育てにお金がかかることを不安に感じている方が多く、理想の子の数を産出できない最大の理由となっている。 ●子どもと一緒に転入してくる世帯が多く、そのうち約半数は転入後に産出しておらず、転入世帯では、千曲市で産まれた子の総数より転入時の子の総数の方が多い。 ●産科が市内に無いため、通院に時間がかかっている。 <p><理想像></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆経済的負担が軽減され、理想の子の数を産出できる。 ◆安心して子どもを産める環境が整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●産休・育休後、職場復帰した際の雇用の安定などについて企業への働きかけ。 ●生涯支出が抑えられる空き家（中古物件）の購入のメリットをアピール。 ●出産・育児に係る経済的負担を軽減。 ●産科の誘致。 ●オンラインで病院へ相談できるなど、市内に病院がなくても医療を身近に感じられる仕組みの検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て支援策 ・入院助産制度 ・マタニティタクシー利用料助成事業 ・産前産後ヘルパー派遣事業 ・産後ケア事業
	有配偶出生率	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ●身近に夫婦どちらかの親等の子育ての協力者がいる世帯が多い。 ●夫婦ともに市外出身のため子育ての協力者が近くにいない世帯の多くは行政による家事や育児の支援を望んでいる。 ●子育てに係る経済的支援を望んでいる方が多い。 ●実際に子育てをしている方は、千曲市の子育て支援に対する満足度が高いが、公園や屋内施設など環境整備については不満の声も多い。 ●子育て世帯の転入地域に偏りがみられる。 ●未満児保育を希望する家庭が増加している。 ●保育士が不足している。 ●小児科が少ないと感じている方が多い。 ●どんな子育て支援があるか知らない。 <p><理想像></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子どもを預ける場所が充実している、子育てを支援してくれる人がいるなど、子育てに対する負担が少ない。 ◆小児科など医療機関が充実しているなど、子育てに対する不安が少ない。 ◆必要な時に使える子育て支援サービスがすぐにわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育ての協力者が近くにいない人向けの家事・育児支援。 ●小児科病院の誘致。 ●オンラインで病院へ相談できるなど、市内に病院がなくても医療を身近に感じられる仕組みの検討。 ●屋内で遊べる施設の建設などニーズを踏まえた検討。 ●公共施設や民間商業施設等の子育てに係る設備等の整備状況の紹介。 ●ファミリー・サポート・センター事業の登録者数を増やす。 ●夜勤の方などにも対応できるような保育園の運営時間や保育士の勤務条件の検討。 ●保育園に子どもを預けない人向けの支援の充実。 ●男性の育児休暇取得促進を企業に働きかけ。 ●女性が子どもを産んでも働き続けられる企業を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ファミリー・サポート・センター。 ●子育て支援センター(市内2か所) ●子育て支援施設 ・子育て支援ショートステイ事業 ・子育て支援トワイライトステイ事業 ・障がいのある子どもに対するタイムケア事業 ・福祉医療費給付事業

取り組むべき課題や地域の資源や強みの整理

- ✓ これまでの調査結果を踏まえ、各分野で洗い出したライフステージごとの課題や資源を整理する
- ✓ STEP5以降のプロセスで対応策の検討に移ることも踏まえて、解決すべき課題の優先順位もあわせて検討する

項目	地域住民の実態と理想像	取り組むべき課題	地域で活用できる資源や強み
社会増減 (転出入)	若年層 <p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ●高校卒業後、進学や就職等で市外に出る人が多く、近年は転出する女性が増加傾向。 ●大学卒業後に戻ってくる人が少ない。 ●市外に勤務している方が、結婚を機に職場近く(市外)へ転出する。 ●まちに魅力を感じていない若者が多い。 ●女性(特に若年層)が希望する職種が少ない。 ●働く場が少ない。 ●若年層が利用したいと思う小売店や飲食店が少ない。 <p><理想像></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大学等を卒業し就職しても、千曲市に戻ってくる若者が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●調査方法と調査内容を再検討し若年層が戻ってこない要因を調査。 ●子どもの頃から千曲市に魅力を感じてもらえるまちづくり。 ●女性が選択できる企業を誘致。 ●市内に通勤・通学している市外在住の方が千曲市に住みたいと感じてもらえるまちづくり。 ●技術者など企業が欲しいと思っている働き手を早い段階で確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ●製造業が多い。 ●長野市に比べアパート代が比較的安い。 ●長野市や上田市近隣へのアクセスが良い ●交通の要衝
	子育て世代 <p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ●近年転入が多く、社会増が続いているが、最初から千曲市を選んでいる世帯は3割程度で、そのほとんどが親と同居や夫婦どちらかが出身地など千曲市とつながりが深い方ばかり。 ●千曲市に縁がない世帯から転入先の候補とされていない。 ●転入時に他の市町村も検討していた方の多くは、土地が安いことを理由に千曲市を選んでいる。 ●転入世帯の約半数は子どもがいる世帯。 <p><理想像></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆千曲市に縁のない世帯も含め、千曲市への転入者が増加。 ◆転入してきた子育て世帯が千曲市にいても理想の子どもの数を持つことができる。 ◆子育て支援策が充実していることを理由に移住を考える世帯が増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ●土地の値段の安さも含め、子育て世帯に転入先として千曲市を選んでもらえるよう市の魅力をアピール。 ●転入しても子どもを産み・育てたいと思える環境の整備。 ●生涯支出が抑えられる空き家(中古物件)の購入のメリットをアピール。 	<ul style="list-style-type: none"> ●製造業が多い ●長野市に比べアパート代が比較的安い。 ●スーパーなどが多く食品等の買い物が便利 ●土地が安い ●ファミリー・サポート・センター。 ●子育て支援センター(市内2か所) ●子育て支援施策 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援ショートステイ事業 ・子育て支援トワイライトステイ事業 ・障がいのある子どもに対するタイムケア事業 ●福祉医療費給付事業

STEP 5 対応策の検討

関連事業の確認・整理

- ✓ STEP1-2で作成した少子化対策に関する取組内容を再確認し、幅広い視点をもってアップデートする

項目		現在の取組	担当課	予算規模	成果（KPI含む） および課題認識
自然増減	有配偶 結婚	結婚新生活支援事業	こども未来課	6,000千円	・補助件数：18件
		婚活支援事業	こども未来課	1,000千円	・広域的なネットワーク事業への参加とマッチングシステムの導入
	出産	赤ちゃんサーブیسエリア整備費補助金交付事業	こども未来課	50千円	・登録施設数：26施設
		産前産後ヘルパー派遣事業	こども未来課	216千円	・決定に時間を要する場合がある
		不妊治療助成金交付事業	健康推進課	2,128千円	・条件変更にもなう申請件数の推移の把握
		産後ケア事業	健康推進課	67,983千円	・利用できる回数および施設数を拡大
		たまご教室	健康推進課		・年々参加者は増えている。
		妊婦一般・産婦健康診査、妊婦歯科検診	健康推進課		
		4か月未満赤ちゃん訪問	健康推進課		
		3か月、1歳6か月、2歳、3歳児健康診査	健康推進課		
		7か月、10か月児離乳食相談	健康推進課		
		育児相談	健康推進課		
	言語相談・心理発達相談	健康推進課			
	すくすく広場(フォロー教室)	健康推進課			
	福祉医療費給付事業	健康推進課			
	有配偶出生率 子育て	子育て世代包括支援センター事業	健康推進課	18,500千円	・出産、子育て施策全体について、施策も手厚く、待機児童が少ないなどの成果も出ているが、施策のPRが不十分
		訪問指導	健康推進課	2,220千円	
		赤ちゃん応援特別給付金交付事業	こども未来課	550千円	
		子育て応援祝品交付事業	こども未来課	1,000千円	
		マタニティタクシー利用料金助成事業	こども未来課		
		子育て支援ショートステイ事業（短期入所生活援助）	こども未来課	115,759千円	
		子育て支援トワイライトステイ事業（夜間養護）	こども未来課	12,987千円	
		放課後児童健全育成事業（児童館・児童センター）	こども未来課	7,989千円	
		地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）	こども未来課	100千円	
		病児・病後児保育事業	こども未来課	264千円	
		子育てガイドブック作成	こども未来課	195千円	
		子育て応援アプリ運用	こども未来課	439,932千円	
		発達障害児子育て支援事業	こども未来課		
		日曜保育事業、一時保育事業、延長保育事業	保育課		
		幼児教育・保育の無償化	保育課		
保育料 第2子以降の半額化		保育課			
副食費徴収免除		保育課			
実費徴収に係る補足給付事業		保育課	63,344千円	・市単独事業分の予算確保	
育児・栄養相談	保育課	318千円		・財源の確保	
要保護及び準要保護児童生徒就学援助費	教育総務課	2,794千円		・スタッフの高齢化、不足	
奨学金の貸与	教育総務課	1,000千円	・2件（単身1件、世帯1件）		
放課後子ども教室（1小学校のみ開催）	生涯学習課		・支援策が今後の課題		
社会増減 (転出入)	若年層	UIターン就業・創業移住支援事業補助金	ふるさと振興課		
	子育て世帯				